



編集委員退任にあたって

『情報処理』に限らず雑誌全体を見るにあたり、そこから何を読み取るでしょうか？

私は『情報処理』に寄せられる意見が好きでひととおり目を通しています。大体どの記事に対しても肯定的・否定的両方の意見があってどちらも好きなのですが、中でも特に面白いと感じるのはまったく同じ点を指して肯定的・否定的両面で受け取られているものです。たとえば、あまり学術よりでない内容の記事であれば「そこが面白かった／参考になった」と「そこが会誌に相応しくない」という意見が両方来ていることがあります。この場合ですと、記事の想定読者像と意見を送ってきた読者像が合致しているかどうかの大きいのかなどと要因を想像したりします（『情報処理』では目次に想定読者を示す指標が付いています）。

通常、各記事のページ数は執筆前にあらかじめ限られており、執筆者にはその決められたページ数の中で読者に伝えたいことを表現していただきます。似たような制限は編集者にとっても存在しており、雑誌全体は編集者自体の数、執筆者、組版・印刷・配布のコスト等で制限されています。その中で、意識的にせよそうでないにせよ、何をどう載せ逆に何を上げないかという全体の構成によって、編集者たちは雑誌全体で読者に伝

えたいことを表現することになるわけですね。そういった観点で、最も雑誌全体の意思が載ってしまうことから目次は重要なコンテンツであるとも言えるではないでしょうか。

多くの読者は個々の記事に対してその記事が言わんとしていることを読み取り、肯定的なり否定的なり、あるいはどちらでもないなりの意見を持ち表明します。一方で雑誌全体に対してとなると「こんなことを取り上げてほしい」といったピンポイントでの要望こそはよく見るのですが、雑誌全体や紙面の変遷から読み取りをし、それが表現していることに対して意見表明する人はあまり多くはないようです。『情報処理』の編集・出版活動やその配布形態、および、関連企画には、今現在、編集者たちや情報処理学会自体が「何を狙い何にウェイトを置き始めているのか」「どう変わってきているのか」といった意図・方向性や組織の置かれた現況が反映されることになります。バックナンバーも含め『情報処理』を購読していく上で、そのあたりを読み取ろうとしていくのもまた面白い試みなのではないかと思います。

今後も『情報処理』では興味深い記事が掲載され続けていくでしょう。時には購読している読者の方にも執筆をお願いする機会があるかもしれません。諸々含め、引き続きご愛読よろしくをお願いします。

（大川徳之／Idein（株））

.....



編集委員退任にあたって

編集委員の退任にあたって何か書いてくださいと言われたのだが、めずらしく書く内容のアイデアが浮かばない。その理由はたぶん2つ。1つは『情報処理』の作成はどんな特集をやりたいかアイデアが浮かんだら、それを編集会議に図る「提案型」であり、また執筆する際はおよそ自分の得意な分野が回ってきていた。つまりそのような書き方に慣れてしまったからなのだと思う。もう1つは自分の場合は、いつの間にか『情報処理』の編集委員になってしまったという感覚を持っているからだと思う。今では本誌にすっかり定着した「特別解説記事」であるが、これを担当するワーキンググループができる前から時々こういった記事のうちサイバー法にかかわるものを頼まれて書いていたら、いつの間にか編集委員会の委員としても特別解説のコーディネートを担当することになったというのが自分の経緯だからである。

もっともそのようなことができたのは、塚本先生、稲見先生と二代に渡る編集長が『情報処理』で扱う範囲を自然科学だけでなく社会科学や人文科学も含む全学問領域に広げて下さったおかげである。両編集長には心から御礼を申し上げたい。コン

ピュータやネットワークが生活のあらゆる領域に浸透し不可欠なものになった今、情報科学も360度の視点から物事を見ていかなないと立ち行かなくなっていると言える。

そもそも図書館などでおなじみの「日本図書コード」の分類コード（Cコード）ではその第3～4桁で内容を示しているのであるが、情報科学は「04」番に割り振ってある。これを4番目だと思っただけとはいけない。哲学や工学などといった各学問ごとのコードは10番台から順に割り振ってあり、一桁台を使っているものは「00」番が総記であり、「01」が百科事典、「02」が年鑑・雑誌、03がなくて、「04」に情報科学、05以降は現在未使用ということになっている。これは情報科学というものがやはり総合的・複合的な分野であることの表れであろう。その点では我が情報処理学会、そして『情報処理』は相応しい経路を採っていると思う。コンピュータに関する法や政策の分析、人の行動科学的側面からの分析の必要性は今後も衰えることはないであろう。

そんなわけで、いつの間にかかかわっていた本誌の編集委員会であるが、いつの間にか今後も引き続き特別解説記事のワーキンググループのメンバとしてはお手伝いさせてもらうことになったようである。なので、退任の言葉もいつの間に始まっていつの間に終わったのか曖昧なままの文章としておきたい。

（須川賢洋／新潟大学）



編集委員退任にあたって

2014年から担当させていただいた編集委員をいよいよ退任することになった。なんと、7年間も務めさせていただいた。こんなに長いのはめずらしいのではないだろうか。なぜこんなに長いのか。それは2018年に編集委員を退任するはずが、2017年から会誌・出版担当理事を2年間務めさせていただくことになり、理事として編集委員会に残留することになったからだ。そして、理事の任期満了後2年間、オブザーバーとして編集委員会に置いていただいたこともあり、7年もの歳月をここで過ごすことになった。

私を編集委員に推薦してくださったのは、塚本前編集長だった。「情報処理学会の編集委員会は、『編集委員長』とは呼ばずに、『編集長』と呼ぶんだよ。雑誌の編集長みたいで、とても気に入ってる」と塚本前編集長は仰った。パーティの席で司会を担当させていただいた折、そんな塚本前編集長の想いをお聞きしていたにもかかわらず、何度か「塚本編集委員長」とお呼びして壇上にあげてしまった。大変申し訳ないことをしたと今でも反省しているが、塚本前編集長は、そんな私にいつも通り優しくかった。そして、編集長としての任期期間中、一貫して「通勤電車ですらりとめくれるような会誌を目指す！」という方針を示してこられた。このまっすぐな想いが、恐らく現在の読みやすい・

親しみやすい会誌につながっている。

次に編集長になったのが、稲見現編集長である。稲見編集長は初回の編集委員会で「情報処理分野における最大規模の同人誌を目指す！」という方針を示された。当時会誌・出版担当理事だった私は、理事会で稲見編集長がされた所信表明を報告し、多くの理事が笑みを浮かべながら、大きな期待を寄せられているのを目にした。

塚本前編集長は、引用文献を6件程度にとどめることをとても大事にされ、『情報処理』は研究論文を掲載するメディアではないということを明確に主張された。そして、漫画やイラストを積極的に掲載するなど、それまでの会誌では考えられなかったことを次々と実現させた。稲見編集長は、noteと会誌を連動させたり、全国大会での「先生、質問です！」の公開セッションをバーチャル会場で開催するなど、会誌の新しい在り方を具現化されていていく。どの活動も、編集長として掲げた方針や所信表明があつてこそ、安定的に・魅力的に進めることができたのではないかなと思う。

こんな精力的な学会活動を7年間も間近で見ることができて、私は本当に幸せだった。今後、自分が何かの舵取りをしなけいけなくなるとき、お二人の編集長、および魅力的な編集委員の方々の振舞いを思い出し、方向を定めていきたいと思う。

(坊農真弓／国立情報学研究所)

.....



編集委員退任にあたって

2020年度末まで、システム分野ワーキンググループ(SWG)の編集委員を4年間務めさせていただきました。3年目の2019年にはSWG幹事を拝命し、当時の主査とワーキンググループの運営にも携わらせていただきました。予想外だったのは主査が途中で異動され、主査の業務が難しくなったことでした。そこで幹事の私のほうでサポートさせていただき、リモート会議を使ってなんとか乗り切った(?)記憶があります。4年目の2020年にはそのまま主査を拝命しまして、コロナ禍の中、これまたリモート会議で運営することとなりました。

ワーキンググループの主なミッションとしては特集記事の企画があるのですが、これは編集委員どうしの雑談や情報交換から生まれてきます。業界や専門分野の異なる方々とのコミュニケーションはいつも刺激があり楽しかったです。リモート会議においてこうした情報交換がうまくできたのか、特に新しく加入された方をうまく巻き込めたか、少々自信がないところではあります。

特集企画もいくつか経験させていただきました。ゲストエディタの先生への企画の依頼、執筆者の先生とのやりとりとスケジュール管理、閲読など、どれも初めてやることばかりで先輩委員や事務局の皆様のおかげでどうにか乗り切ることができました。個人的には時流を得た王道の特集が組めたのではない

かと思っています。今後の課題としては企画担当者とゲストエディタの負担の低減があると思いました。特に執筆が遅れる方が出ると個別対応が多く発生して大変でした。もう少し気楽に企画が担当できるよう、編集ノウハウの文書化やツール類の整備が望まれるところです。自分もメモを残そうと思います。

ここ1、2年で会誌は多チャンネル化とオンライン化を促進させました。私自身は間接的にはありますが、オンライン版への最初の特集という形で関与させていただきました。複雑な契約形態と制約条件の中、これらの拡張を実行されていて本当に頭が下がります。一方で読者や執筆者の側からは少々複雑すぎる気がしていて、プロセスやユーザビリティを実装する事務局側の負担も気になるところです。ユーザ目線でのエンド・ツー・エンドの利用感をデザインしたりテストしたりする役割の人を置くのがよいように思いました。

最後になりましたが、情報処理学会会誌の編集という貴重な機会をいただき、ありがとうございました。読者の皆様におかれましては記事を読んでいただきさまざまなコメントをありがとうございました。ゲストエディタや執筆者の先生方、稲見編集長をはじめ本会議、WGそして事務局の皆様、大変お世話になりました。皆様のますますのご活躍と会誌の進化と発展をお祈り申し上げます。

(河原 亮／日本アイ・ピー・エム(株) 東京基礎研究所)



編集委員退任にあたって

MWG 委員を 4 年間担当させていただいており、ほぼ同じ期間、新世代企画委員会の委員としても本誌とかかわらせていただきました。この 4 年を振り返ってみて改めて感じるのは、いずれの編集長・委員長（稲見昌彦先生、寺田努先生、重野寛先生、川原圭博先生、鬼塚真先生）も「自由にやっていいよ！」というスタンスをされていて、非常に働きやすかったなとしみじみ思います。

MWG とは、member working group の略で、会員サービス分野の working group (WG) です。会誌の編集委員の皆様は全力で会員・読者の方を向いて仕事をされていて、MWG はその皆様が全力で働けるようにサポートするのが趣旨だと認識しています。主な仕事は、会議レポート・書評の閲読、会員の広場（読者アンケート）の構成（コメントのピックアップと校正）です。最初の 2 年間は委員、3 年目は幹事、4 年目は主査を担当しました。昨年 4 月に私が主査となったときに、私が委員となった頃と比べてさまざまな Web サービスやコミュニケーションツールが出現・普及したことや、メーリングリストに自身と関係のない情報も多く流れて必要情報を見落としてしまうことがあるという状況を踏まえて、昨年度は作業の進め方をいろいろと変えました（ざっくりと述べると、自分に関係ない情報は受動的には届かないけど能動的には見に行けるという方針）。企業ごとに利用できるサービス・ツールがまちまちであるため、この変更で業務が改善された方も改善された方もいらっしゃると思います。ご対応いただいた MWG 委員の皆様には心より感謝申し上げます。

一方で、新世代企画委員会は、ジュニア会員や若手研究者向けの支援に取り組んでいる委員会です。主要な取り組みとしては、「IPSJ-ONE」や「先生、質問です！」の企画をしています。当時の委員長の寺田先生から「やんちゃなことをしてほしい」とお声がけいただいたものの（これは元々、当時本会会長喜連川優先生の掲げた委員会のミッションとお聞きしています）、根が真面目な私は最後までやんちゃなことはできず、とはいえ楽しく取り組ませていただきました。私は主に、五十嵐悠紀さんに手取り足取り教えていただきながら「先生、質問です！」を担当させていただきました（企画の進め方は本当に勉強になりました）。本企画の立ち上げの経緯や進め方などに興味を持たれた方はぜひこちらの記事¹⁾もご覧ください。また、新世代企画委員でも 4 年目になりようやく自分がしたいことが分かり、「予算申請者作成メンタリング」を企画しています。こちらは日本学術振興会主催の博士課程学生向けの支援制度である学振 DC1/DC2 の申請書作成支援を行っています。情報学を盛り上げ

るのに少しでもお手伝いできればうれしいと思って取り組んでいます。

この 4 年間いろいろと楽しかった思い出はありますが、うれしかったことといえば 2018 年度学会活動貢献賞（表彰の名目は会誌編集委員会と新世代企画委員会の連携業務への貢献）をいただいたことが思い出深いです。連携のため会誌編集委員会に出席しているうちに特集のゲストエディタにお声がけいただいたり、特集で記事を執筆させていただいたり、『先生質問です！』公開セッションの司会を担当させていただいたり、貴重な機会をいただけました。また、会誌編集委員会にはさまざまな分野の研究者の方が参加されていて、普段議論させていただくことの少ない他分野の方の意見はとても興味深く、分野に閉じた委員会ではなかなか得難い経験となりました。

こうして会誌に関連していくつか仕事をさせていただくうちに、重大なことに気付きました。それは、会誌事務局の仕事多すぎでは? ということでした。稲見先生は精力的に新しい取り組みを始められた（特に会誌のオンライン化をあのスピードで実現したのは圧巻でした）ので、事務局の皆様方はルーティンの作業に加えて、追加でさまざまな業務をこなされていていました。その作業量を横目に見つつ、事務局の業務負荷軽減に何か貢献できることはないかと考えて、MWG 業務に関して可能な限り自動化しました（流行りの表現をすると MWG の DX でしょうか）。具体的には、アンケートの自動作成スクリプト、収集したアンケートの自動整形スクリプト、アンケートサマリ作成スクリプトを作成しました。スクリプトの実行環境も私の方で整備させていただいたものの、現在これらのスクリプトは事務局にて実行していただいています（情報を冠する学会の事務局だけあって、IT リテラシは相当高くないでしょうか?）。

本稿を執筆しながら振り返ってみると、楽しかった記憶の大半はいろんな人との議論や雑談だったことに気付きました。この 4 年間、一緒に仕事させていただいた皆様、本当にありがとうございました。またどこかで一緒することがあれば、どうぞよろしくお願い申し上げます。最後に、私事ですが 2019 年度に大学から企業に転職して、委員の仕事もセーブすることになるだろうと思っていました。いざ蓋を開けてみれば思うように活動させていただきました。弊社の寛大な配慮に感謝いたします。

参考文献

- 1) 樺 惇志：集めよ！ジュニア会員！！：6. 「先生、質問です！」が目指すこと、情報処理学会、情報処理、Vol.60, No.9, pp.855-858 (Sep. 2019).

（樺 惇志／（株）デンソーアイティラボラトリ）

.....



編集委員退任にあたって

はじめまして、2015年4月より本誌編集委員を務めさせていただいた斎藤俊則と申します。このたび編集委員を退任することになりました。任期中は学会事務局および編集委員会の皆様方へ大変お世話になりました。まずはこの場を借りて深く御礼申し上げます。

僭越ですが、ここで少しか任期中のことを振り返ります。まず、会誌づくりが編集委員のボランティアワークと学会事務局のプロフェッショナルな仕事の連携で成り立つこと、この連携に微力ながら参加する機会をいただいたことの尊さを改めて思い返す次第です。編集長以下、各編集委員はそれぞれ多忙な本業を持ちながら、多大なる労力を編集作業に割り当てており、編集に関する業務連絡は日々絶えることがありません。その作業にかかわる中で、私は各委員の情報分野のエキスパートとしての責任感や使命感に多く触れました。私にとってこの経験は大変尊いものでした。

他方、これは私個人のことなのですが、任期の後半は自身を取り巻く状況、特に学会を通じた社会貢献に割くことのできる時間や労力の変化により、EWG（本誌教育分野のワーキンググループ）の幹事を引き受けながら、ほかの委員の作業を助けるまでに力が及ばなかった点に^{じくじ}忸怩たる思いがあります。EWGメンバの皆様に対してはこの場を借りて心よりお詫び申し上げます。この点についてはボランティアワークとしての学会活動の難しさを噛み締めるところです。

他方、任期のあったこの6年間に本誌の在り方は大きく変わりました。特にこの期間は本誌が伝統的な紙媒体からデジタルメディアによるコンテンツ発信へと軸足を移してゆく期間であったと思います。この変化は我が国におけるデジタルトランスフォーメーションのフラグシップを自認する情報処理学会

の在り方と歩調を合わせたものであり、他学会に先駆けてデジタルメディアを活用した多様なコミュニケーションの可能性を示した点で大変重要な変化でした。

この変化により、情報分野にて一定程度の速報性を担いつつ、専門性に裏打ちされた質の高く有用な知識の普及を使命とする本誌の位置付けはより明確なものとなりました。本誌を通して読者は情報分野で今何がホットな話題であり、その話題の核心は何であるのかを短時間のうちに掴むことができます。情報分野においてこのような速報性と質の高さを兼ね備えた媒体は他に類を見ないものであり、会員になることの大きなメリットを創り出しているといえます。

私の在任中、本誌編集委員会は情報分野の魅力や可能性を発信すべく、ほかにも会誌の枠に囚われない野心的な試みを数々行ってきました。また本会自体もジュニア会員制度の創設など次世代への働きかけを強めています。よく知られる通り、我が国は社会のデジタル化においてさまざまな課題を抱えており、その一因はデジタル化の価値や可能性に対する社会全体の理解が進まない点にあると考えられます。この状況の改善においては、情報分野の専門家による社会全体への教育的かつ啓蒙的な働きかけが大きな意味を持つことでしょう。そのような中で、会員に対する本会の情報分野をより身近なものとするための取り組みはますます重要になると思われます。

本誌編集委員会におかれましては、ぜひとも斬新で野心的な、そして何より編集委員自体が楽しんでいることが伝わるような新しい企画の数々によって、ジュニア会員をはじめとする会員読者に対する、情報分野への（そしてEWGの立場からは情報教育への）理解の裾野の拡大にその力を奮っていただければと思います。また、これからも本誌に関して何かお役に立てることがあれば気軽に声がけいただければと思います。どうもありがとうございました。

（斎藤俊則／星槎大学）

.....



会員の広場

今月の会員の広場では、3月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、巻頭コラム「エモーショナルなロボットを作るわけ」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

- なにげない生活のロボットと人間とのやりとりから気づきを得て、ロボットの生活での役割を示すビジョンを示したことは夢があつてよい。(匿名希望)
- ロボットの将来像が楽しい。(大野知彦)
- エモーショナルという言葉はここ数年よく聞くので、もっとほかの表現がないだろうかと思った。(匿名希望)

特集「DX時代のサプライチェーン・セキュリティ」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

「0. 編集にあたって」

- 高度にネットワーキングされたCPSが経済社会基盤となっていくと個別対処では十分なセキュリティ対策とはいえず、サプライチェーン全体でのセキュリティ対策とそのV&V (Verification & Validation) 確保の仕組みが必要となる点は理解。(立石譲二)
 - DXについてのサイバーセキュリティに関する包括的な方向性を示している。(渡邊 滋)
 - 特集記事全体について、制度的な話が多く、全体的に読んでいて面白いとは思えなかった。(匿名希望)
- 「1. サプライチェーンにかかわるセキュリティを確保するための仕組みと制度」
- 網羅的にサプライチェーンを前提としたサイバーセキュリティの認証フレームワークについてまとめられていて、有用である。(匿名希望)
 - 巨大化・複雑化しているサプライチェーンのセキュリティ確保について俯瞰的な説明がなされており、その重要性・困難さが理解できた。セキュリティ自体の強化だけではなく、説明責任を果たすことが重要との指摘は同感で納得できた。(丹羽邦彦)
 - サプライチェーンのグローバル化が進んでいる中で、国際的なサプライチェーンのセキュリティにはどのように取り組まれているかも関心があるところで、もう少し説明があってもよかった。(丹羽邦彦)
- 「2. サイバー・フィジカル・セキュリティ・フレームワークを活用したサプライチェーン・セキュリティの確保」
- サプライチェーンの危うさ、またその解決にはまだ難しい問題が多いことがよく分かった。(匿名希望)
 - CPSFの概要が説明されており、その考え方は参考になった。CPSFは産業界全体を対象としたモデル的枠組みであり、それを各産業分野に具体的な形で落とし込むことが重要であるので、今後の各SWGの検討に期待したい。(丹羽邦彦)
 - 文中で「セキュリティ」と「セキュリティ・セーフティ」とが用いられているが、意図的に使い分けているのか、どのような定義で使われているのか、興味があるところである。(丹羽邦彦)

「3. サプライチェーン・セキュリティの脅威と対策の動向」

- ここ数年で起きた事件を念頭に置きながら読み進められた。(匿名希望)
 - システムを利用する際の脅威について、再確認できました。(匿名希望)
 - サプライチェーンで実際に発生したセキュリティインシデントの事例を分類・整理して説明しており、その実態が理解できた。(丹羽邦彦)
 - 脅威に対してどのようにすべきかについて、より具体的な案があればよいと思った。(匿名希望)
 - 対応を個人レベルまでに広げる必要がある。(足立潔史)
- 「4. 制御機器のセキュリティ認証制度」
- ネットワークに接続された制御機器においても、外部からの攻撃によるセキュリティインシデントが発生する事例があることは、大変興味深い。(匿名希望)
 - 関係する活動が広く網羅され、分かりやすく説明されていた。(伊藤雅樹)
 - 一般読者の行動への推奨があればなおよかった。(伊藤雅樹)
- 「5. 第三者認証によるサプライチェーン・セキュリティの確保とアシュアランス」

- 今後IT化がさらに進むにつれての、セキュリティ対策についての展開を知ることができた。(匿名希望)

- Charter of Trustによって今後どのような効果が出てくるのか楽しみ。(匿名希望)

「6. 米国を中心とした第三者機関によるセキュリティ評価の動向」

- 米国の動向が新鮮だった。(匿名希望)
- 海外事情が分かる。(新田義彦)
- アジア圏枠を広げるとよい。(新田義彦)

「7. ソフトウェア部品表(SBOM)に基づくリスク管理」

- リスク管理に興味あり。(匿名希望)
- SBOMの重要性は理解できた。(伊藤雅樹)
- SBOMを活用するにあたっての、具体的な提案や示唆が読み取れなかった。(伊藤雅樹)

解説「プログラミングの思考がわからない」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

- 高い視点から「プログラミング」を眺めた内容が新鮮であった。(平澤将一)
- プログラミングの性質について、観念的でない議論に説得力がある。(巫召鴻)
- 分からないことを分かるようにするために、根本的に思考形態の違いを考慮するのは非常に重要なので興味深かった。(岩瀬 正)
- 論理的ではないプログラミング、ではどうなるのか、どうするのか、見えなかった。(平澤将一)
- 結論的な論点に関する具体的説明が足りなかった。(渡邊 滋)

教育コーナー「べた語義」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

「ハイレックス授業」

- 昨年の厳しい大学運用から見出されたメリットが見えた。(平澤将一)
- ハイレックス授業について、ほかの人がどのようにやっているかが分かってよかった。(匿名希望)

■「習慣」の力は大きい(学習継続など)と思うのだが、そのような点での弊害はなかったのか書いてほしかった。(匿名希望)
「第13回全国高等学校情報教育研究会全国大会(オンライン大会)」

■高等学校における情報教育の現状がよく分かりました。(川口雅司)

■触れる機会の少ない大会の内容の紹介が有意義。(巫召鴻)

連載「情報の授業をしよう! : 新学習指導要領『情報I』の授業を考えよう」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■高校生の興味関心が高く、学習したことを実践しやすい題材として、大変興味深く読みました。(金子雄介)

■情報Iでスタンプ制作を通して体系的に学べる点はとても良いと感じた。(笹部聖也)

■LINEスタンプの制作に取り組んだ生徒たちの声を聞きたいと思いました。(松浦満夫)

連載「ビブリオ・トーク：情報系のための離散数学」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■ほかの類似書籍との比較が書かれているので参考になった。(匿名希望)

■離散数学を学ぶことがコンピュータでプログラミングやデータを扱う際の基礎になることを具体的に強調されている点が印象的に思います。一度本書を手にとってみたいと思いました。(松浦満夫)

■離散数学と論理的思考についてもう少し説明が欲しかった。(匿名希望)

連載「5分で分かる! 有名論文ナナメ読み: Jooho Kim and Makarand Hastak : Social Network Analysis : Characteristics of Online Social Networks After A Disaster」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■リスク管理の1つとしてのソーシャルメディアの役割について考えさせられました。(川口雅司)

■会誌で比較的珍しい計算社会科学分野の論文を取り上げていた。(風間一洋)

■災害時におけるソーシャルメディアの役割と可能性についての分析に興味を覚えました。(松浦満夫)

■広く浅く解説すると読みやすくなる。論文の査読報告ではない。(新田義彦)

連載「先生が質問です!!」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■オンラインテストに対するさまざまな試行錯誤が見えた。(平澤将一)

■先生がどんなことにギモンを持っているのか着眼点を学ぶのも勉強だと思うので、良い企画だと思う。(金子雄介)

■具体例で授業運営の仕方のヒントがたくさんあった。(匿名希望)

■オンラインテストではテスト中の情報検索によって正答率が高くなるのが悩ましい、との課題ですが、そもそも社会に出たら「情報検索してはダメ」などというケースはまずない(むしろ逆)ので、それが正しい姿なのでは、と思ってしまいました。(寺田岳生)

委員会から「第83回全国大会にて"デリバリー"始めます!」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■「お届け Info」の内容が漫画で説明しており、大変良い企画で、読者を増やす良い企画であると思います。(匿名希望)

■このハイブリッド学会をヒントに授業運営でも工夫してみたい。(匿名希望)

■使ってみないとイメージがわからない面もあるので、ぜひ活用後の体験報告なども知りたいです。(匿名希望)

会議レポート「Recsys 2020 参加報告」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■国際会議のポイントの押さえ方と、その紹介の仕方がとても上手い。(風間一洋)

会誌の内容や今後取り上げてほしいテーマに関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■巻頭コラムには今月号のようなベンチャー関係の方にまた執筆していただけるとありがたいです。(川口雅司)

■行政や司法におけるITやAIの活用の可能性について取り上げてほしい。(巫召鴻)

■学術テーマ、学際テーマを併せて取り上げてほしい。(上木正博)

note「情報処理」(<https://note.com/ipsj>)に掲載されている記事に関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■noteの記事から、会誌や学会Webページへの導線があるとよいと思う。(金子雄介)

■暗号化、5G関連情報、特定業種の特集など何号分かや年間分を溜めた後で何かに注目したときに、まとめて見直しや調査などを行うことが多く、そのようなときに非常に助かります。(西村隆之)

「先生、質問です!」に質問があればご記入ください。

■情報学に必要な基礎数学を、先生方はどのように勉強して来られたのでしょうか?(服部充洋)

■今後の高専教育はどうあるべきですか?(匿名希望)

■博士課程時代のエピソードや博士を取得する意義を教えてください。(川村慎太郎)

■将来AIにかかわる仕事をしたいと思っています。どういう進路を選択していけばいいのかを教えてください。(匿名希望/ジュニア会員)

【本欄担当 加藤千裕・山本祐輔/会員サービス分野】

これらのコメントはWeb版会員の広場「読者からの声」<URL: <https://www.ipsj.or.jp/magazine/dokusha.html>>にも掲載しています。Web版では、紙面の制限などのため掲載できなかったコメントも掲載しますので、ぜひ、こちらでも参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会Webページでも受け付けております。今後もより良い会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

「情報処理」アンケート回答フォーム▶

<https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>



● 論文誌ジャーナル掲載論文リスト

Vol.62 No.5 (May 2021)

【特集：情報システム論文】

- 特集「情報システム論文」の編集にあたって 柿崎淑郎
- A Secure Cloud-Centric IoT Framework for Smart Device Registration Songpon Teerakanok 他
- 送信ドメイン認証を用いた送信者レピュテーション構築手法の提案 櫻庭秀次 他
- Understanding the Fake Removal Information Advertisement Sites Takashi Koide 他
- 地域性とリアルタイムの周辺状況に応じたカラオケ楽曲推薦 田中茂樹 他
- Cross Modality Pre-Trainingを用いたTwo-Stream 3D Convolutional Neural Networksによる万引き行動の自動検知 山下 裕之介 他
- 機械学習を用いた患者の痛み推定に関する研究 渡邊一規 他
- 協調学習の授業づくり支援のための「学譜システム」開発 (2) ——「開発教材」ページ追加の効果 白水 始 他
- 幾何と位相の特徴に基づいた点群データから道路地物の識別に関する一考察 梅原喜政 他
- 点群データを用いた橋梁パラメトリックモデルの生成に関する研究 窪田 論 他
- ビッグデータ時代の経済ゲーム実験：クラウドソーシングを用いた大規模公共財ゲーム実験の実施 後藤 晶

【一般論文】

- 車線分割に基づきエッジサーバを配置したダイナミックマップシステムのスケーラビリティ向上 細野航平 他
- MirrorNet: A Deep Reflective Approach to 2D Pose Estimation for Single-Person Images Takayuki Nakatsuka 他
- スマートフォン環境光センサを用いた可視光測位の提案 佐藤拓斗 他
- 経済ニュースによる景況感指数の足元予測 関 和広 他
- 無線フレームの観測に基づく IoT 機器の把握支援システム† 江川悠斗 他
- 行動認識ニューラルネットワークによる特徴抽出の可視化と転移学習への応用* 吉村直也 他
- 単語ベースの機械学習モデルによる未知の悪性 PowerShell スクリプトの検知手法* 田尻裕貴 他
- ゼロエフォートセンシングによる屋内 Wi-Fi AP の 3 次元位置推定手法* 天野辰哉 他
- DGA マルウェアにより自動生成された悪性ドメインの判別 佐藤彰洋 他

*: 推薦論文 Recommended Paper

†: テクニカルノート Technical Note



● 論文誌トランザクション掲載論文リスト

(May 2021)

【論文誌 プログラミング Vol.14 No.2】

- 圏論にもとづく正則項上の単一化の形式化 宮前海里 他
- フラット項書き換えシステムにおける正規形の一意性に関する性質の決定不能性 佐藤悠希 他
- An Extensionally Equivalence-ensured Language for Task Parallel Processing with Backtracking-based Load Balancing Tatsuya Abe 他



【論文誌 コンシューマ・デバイス&システム Vol.11 No.2】

- Heterogeneous Sensor Fusion with GMPHD for Environmentally Adaptable Obstacle Detection in Mobility Systems Chow Man Yiu 他
- IEEE 802.19.3 Standardization for Coexistence of IEEE 802.11ah and IEEE 802.15.4g Systems in Sub-1 GHz Frequency Bands Yukimasa Nagai 他



【Transactions on Bioinformatics Vol.14】

- A Method for Objective, Quantitative and Detailed Evaluation of Human Motor Control Function Kyota Aoki 他



◎ IPSJ カレンダー◎

学会イベントの最新情報を下記 URL でご案内しています。新型コロナウイルス感染症拡大を受け、開催方法の変更、開催中止などの可能性がありますので、最新情報をご確認いただきますようお願いいたします。

<https://www.ipsj.or.jp/calendar.html>



書評（ビブリオ・トーク）・会議レポート募集のお知らせ

情報処理学会会誌編集委員会では、会誌「情報処理」に掲載する書評、および会議レポートを広く会員の皆さまから募集しています。

1. 募集対象 次の2種類の記事について、原稿を募集します。書評に関しては、「ビブリオ・トーク—書評—」、「ビブリオ・トーク—私のオススメ—」の2つのカテゴリを設けます。

a-1) ビブリオ・トーク—書評—：過去2年間に出版された、本会会員にとって有益な図書についての紹介もしくは批評。

a-2) ビブリオ・トーク—私のオススメ—：お気に入りの本の紹介。

b) 会議レポート：情報処理に関する国際規模の会議・大会の報告など、時事性が高く、本会会員に広く知らせる価値のある話題。

2. 応募資格

原則として本会会員に限ります。



3. 応募の手続き

- 1) 表題：ビブリオ・トークの場合は、書評もしくは私のオススメの投稿カテゴリ、著者名、書名、ページ数、発行所、発行年、価格、ISBNを書く。会議レポートは、見出しを書く。書評、会議レポートの別を左肩に書く。
- 2) 評者名（会議レポートの場合は筆者名）・所属・評者連絡先（住所、E-mail、Fax など）の記載を忘れずに。
- 3) 本文：ビブリオ・トークは1,500字以内または3,000字以内（1または2ページ）。会議レポートは2,100字前後で書く。
- 4) その他：（必要であれば）参考文献、付録、図、表をつける。詳しくは「原稿執筆のご案内／書評・会議レポート」（<https://www.ipsj.or.jp/magazine/sippitsu/shohyonews.html>）を参照してください。

4. 原稿の取扱い

投稿された原稿は会誌編集委員会で審査し、採否を決定します。採用にあたっては原稿の修正をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。

5. 照会／応募先 一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp

読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約200名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実に役立てていきたいと考えておりますので、以下 Web ページから奮って事務局までお寄せください。

「情報処理」アンケートページ <https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>

一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp

アンケートページ
QRコード



2021 年度定時総会の開催について

会長 江村克己

2021 年度定時総会を下記により開催いたします。総会の案内状は、5 月中旬頃に法律上の社員である代表会員の皆さんに電子メールでお送りいたします。ご欠席の場合には、必ず委任状をご返信ください。

記

日時 2021 年 6 月 8 日（火）15：00～15：45 頃

会場 オンライン開催

会次 第 1. 2020 年度に係る報告

2. 新名誉会員の推薦

3. 新役員の選任

4. 2021 年度に係る計画（報告）

5. 会費滞納会員の取り扱い（報告）

COVID-19 の影響のため表彰式は中止といたします

照会先 一般社団法人 情報処理学会 管理部門

【ご案内】会誌「情報処理」のオンライン記事について

会誌「情報処理」の特集記事は、これまで冊子、オンライン（電子図書館）の両方に掲載しておりましたが、次のとおり オンラインのみへの掲載 に変わりました。また、オンライン限定記事の掲載も始まりました。

◆開始月：2020年11月号（発行日：2020年10月15日）

◆閲覧方法：会員区分によって異なりますので以下をご確認ください。

【個人会員の皆様】

電子図書館（情報学広場：<https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/>）にログインし、該当記事のpdfをダウンロードしてください。すでに電子図書館をご利用いただいている方は今までどおりです。

電子図書館を初めて利用される方は、会員としてのユーザ登録が必要になります。

未登録の方には毎月上旬に次の件名のメールを送信しておりますので、到着次第、登録してください。

- 件名：[情報学広場：情報処理学会電子図書館] ユーザー登録のご案内
- 差出：ipsj-ixsq@nii.ac.jp

【個人会員】



電子図書館
(情報学広場)

★詳細：電子図書館利用方法（個人用）－利用までの流れ（<https://www.ipsj.or.jp/e-library/ixsq.html#anc2>）

ご案内メールをお急ぎの方や閲覧方法が分からない方は、会員サービス部門（E-mail: mem@ipsj.or.jp）に会員番号を添えてご連絡ください。

【賛助会員各位・購読員の皆様】

賛助会員・購読員の企業・大学に所属されている方に「情報処理」（冊子）を貸し出しした場合、特集の閲覧方法について照会がございましたら、次の手順をお知らせください。

<手順>

- (1) 「情報処理」の特集ページ（扉または概要ページ）を開く。
- (2) 閲覧申込のURLにアクセスする（またはQRコードを読み取る）。
- (3) 必須事項を入力し送信する。
- (4) 次の件名（6月号の場合）の受信メールに従って、電子図書館から特集のpdfをダウンロードする。

- 件名：情報処理 2021年6月号（Vol.62, No.6）「チケットコード」とご利用方法のご連絡

★注意事項

- 法人アカウントではご利用いただけません。
- 閲覧される方が電子図書館のユーザIDをお持ちでない場合は、ご自身でユーザ登録する必要があります。

本件に関する問合せ先：一般社団法人情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp



ご寄付のお願い

情報処理学会は、情報処理に関する学術および技術の振興をはかることにより、学術、文化ならびに産業の発展に寄与することを目的に各種事業を戦略的に展開しております。今回、学会活動の更なる活性化を図る上で会員の皆様からご寄付を頂戴いたしたく、お願いを申し上げます。

皆様から頂きますご寄付は

情報技術を通じて、人類及び世界の発展に資するため

情報技術を中心に学術および技術の振興に資するため

将来を担う人材の育成に資するため

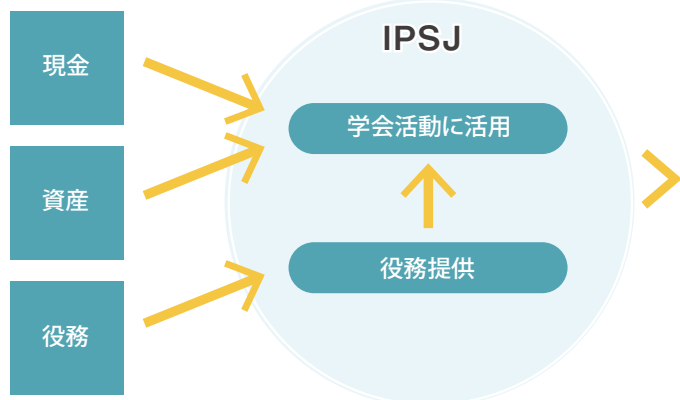
などの観点に照らし、下記の項目に活用させて頂く所存です。

今回ご寄付をお願いしたいのは現金に加えて、情報技術に関わる有形無形の資産（著作物、電子コンテンツ、特許、ソフトウェア等）、ボランティアで提供いただける役務提供（経験や知識に基づく役務）なども含まれます。お預かりいたしましたご寄付のうち用途のご指定のあるものは、そのご意向に沿った活用をさせて頂き、ご指定のないものは、その用途を学会活動の活性化に有効な諸事業で活用させて頂きます。今後も会員の皆様の絶大なるご支援・ご協力を頂きながら、学会発展のために努力して参る所存でありますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

* ご注意 情報処理学会は寄付金に対する税金が優遇される特定公益増進法人ではございません。

IPSJ 寄付

会員他寄付



活用先

教育・育成

情報入試 子ども教室 パソコン教室

社会貢献

表彰

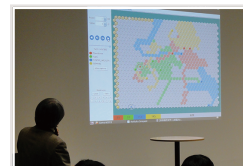
国際活動

規格標準化

情報資産保存

学会諸事業

その他



詳しくはこちら

<https://www.ipsj.or.jp/annai/other/donation.html>

お問合せ

一般社団法人 情報処理学会 管理部門

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F

TEL 03-3518-8374 FAX 03-3518-8375

✉ soumu@ipsj.or.jp

人材募集 (有料会告)

申込方法: 任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書に記載する「宛名」、Web掲載の有無などを記載し、掲載希望原稿（[募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先]）を添えて下記の申込先へ、E-mail、Fax または郵送にてお申し込みください。

*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

申込期限: 毎月15日を締切日とし翌月号（15日発行）に掲載します。

掲載料金: 国公立教育機関、国公立研究機関 22,000円（税10%込）

賛助会員（企業） 33,000円（税10%込）

賛助会員以外の企業 55,000円（税10%込）

*本誌へ掲載依頼いただいた場合に限り、追加料金4,400円（税10%込）で同一内容を本会Webページに掲載できます。

申込先: 情報処理学会 会誌編集部門（有料会告係） E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375

*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし3日以内（土日祝日除く）に返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■金城学院大学

募集人員 教授相当、准教授・常勤専任講師相当 1名【常勤（任期なし）】

研究分野 情報学 - 情報学基礎、社会科学 - すべて

着任時期 2022年4月1日

応募締切 2021年5月31日（必着）

その他 応募条件・提出書類・提出先などの詳細:

<https://www.kinjo-gakuin.jp/recruit/detail/734>

■福岡大学理学部物理科学科

募集人員 准教授 1名【任期: なし】

専門分野 物理学に関連した計算機科学

応募資格 博士の学位を有し、本学での教育と研究に対して意欲と熱意があり、社会的な教育研究活動にも積極的である方

着任時期 2022年4月1日

応募締切 2021年7月20日

その他 詳細は下記URLを参照のこと

<http://www.sci.fukuoka-u.ac.jp/phys/koubo.html>

■慶應義塾大学理工学部管理工学科／大学院理工学研究科開放環境科学専攻（オープンシステムマネジメント分野）

募集人員 専任講師、専任講師（有期）、または助教（有期）
いずれか1名

専門分野 情報科学（情報科学を基盤とし、共生インタラクションや自律・汎用AI、IoT、データサイエンス、計算社会科学など、Society 5.0の先を見据えた次世代AI実現に向けた研究開発を、多様な異分野連携の下、管理工学・経営工学的視点から現場問題解決を視野に入れつつ、アクティブに研究・教育ができる人材）

担当科目 学部での情報科学分野の講義科目、演習・実験科目を担当する（助教（有期）の場合は演習・実験科目のみ担当する）。具体的な担当科目については採用決定後相談し、決定する

応募資格 ・博士の学位またはPh.D.を取得している方。あるいは2022年3月31日までに取得する見込みの方

・上記の研究・教育に従事する十分な能力を有すること
・学部および大学院の研究・教育に対して熱意があること

応募締切 2021年6月18日（必着）

照会先 管理工学科 主任 鈴木秀男

E-mail: shunin@ae.keio.ac.jp

その他 詳細は、https://www.st.keio.ac.jp/corporations/recruit/20210322_02.html をご参照ください



◆◆ 有料会告について ◆◆

本会の主催・共催行事および協賛・後援記事の次第書（論文募集，参加案内等）の本誌掲載については，下記により有料にて取り扱っていますのでお知らせします。

記

■掲載条件

件名	内容	掲載単位	掲載料金（税抜）	
論文募集／ 参加者募集	国際会議，シンポジウム，ワークショップ，講演会，講習会などの論文募集・参加者募集	1 ページ，1/2 ページ または 1/4 ページ	（主催・共催）	
			1 ページ	55,000 円（税 10% 込）
			1/2 ページ	33,000 円（税 10% 込）
			1/4 ページ	22,000 円（税 10% 込）
			（協賛）	
			広告として取り扱う	
人材募集	国公立教育機関，国公立研究機関， 企業の人材募集	10 行程度	国公立教育機関，国公立研究機関	22,000 円（税 10% 込）
			賛助会員（企業）	33,000 円（税 10% 込）
			賛助会員以外の企業	55,000 円（税 10% 込）
			* 本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り，追加料金 4,400 円（税 10% 込）で同一内容を本会 Web ページに掲載できます。	

■申込方法

任意の用紙に，件名，申込者氏名，勤務先，職名，住所，電話番号および請求書宛先，Web 掲載の有無（人材募集のみ）などを記載し，掲載希望原稿を添えて下記の申込先へお申し込みください。

■原稿の書き方

- 行事次第書： A4 変形判カメラレディまたは PDF ファイル（フォント埋め込み）とします。
 (1 ページ) 天地 250mm × 左右 180mm
 (1/2 ページ) 天地 120mm × 左右 180mm
 (1/4 ページ) 天地 55mm × 左右 180mm
 * A4 変形判以外の原稿は縮小または拡大となりますのでご注意ください。

- 人材募集： 次の項目を明記し，E-mail または Fax，郵送にてお送りください。
 [募集職種，募集人員，(所属)，専門分野，(担当科目)，応募資格，着任時期，提出書類，応募締切，送付先，照会先]
 * なお，都合により編集させていただく場合がありますので，ご了承ください。

■申込期限

毎月 15 日を締切日とし，翌月号（15 日発行）に掲載します。

■掲載料金

掲載号発行日に料金を請求いたしますので，3 カ月以内にお支払いください。

■掲載申込先

一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門（有料会告係）
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
 E-mail: editj@ipsj.or.jp Tel (03) 3518-8371 Fax (03) 3518-8375



「情報処理」 カタログ同封サービスの ご案内

？
カタログ同封
サービスとは？

毎月会員に配布している学会誌に貴社／貴校のカタログや広告を同封し、直接読者にお届けするサービスです。
通常のDMと異なり学会誌に同封しますので、**読者の開封率は格段に上がります。**
また、カタログ送付にかかる**コストを最小に抑えることができ、なおかつ情報処理を専門とする読者にターゲットを絞った効果的な案内を出すことが可能**となります。

お申し込み方法と掲載までの手続き

- ①封入希望月の前月15日までに下記事項を記載の上、問合せ先までお申し込みください。
◆会社名、担当者、連絡先（住所、Tel、Fax、E-mail） ◆封入希望号
◆サイズ ◆カタログの簡単な内容説明
◆割引対象にあたる場合はその旨記載ください。
- ②封入希望月の遅くとも前月末日までに下記事項について手配をお願いします。
◆カタログ見本を問合せ先までお送りください（PDF、Fax可）。
◆納品業者をお知らせください。
- ③納品日は封入希望月の5日（土曜、日曜、祝日の場合は翌営業日）です。
日付指定にて必要枚数（20,000枚）を印刷し指定の納品先へお送りください。
※納品先は、お申し込み後にご連絡いたします。
※納品が遅れますと同封ができない場合がございます。その場合はキャンセルとさせていただきます。
- ④カタログを同封した学会誌を発行日にお送りしますので、ご確認ください。
- ⑤後日請求書をお送りしますので振込手続きをお願いします。

1通あたり
約19円！

基本価格 385,000 円

（税10%込）

対象：全会員 20,000 通 配布

（正会員／名誉会員／学生会員／賛助会員）

大学や
共催事業は
さらに割引も！

大学／研究所／賛助会員または情報処理学会主催・共催事業は、下記のとおり割引料金が適用されます。

大学／研究所／賛助会員
（基本価格の40% Off！）

231,000 円
（税10%込）

情報処理学会主催・共催事業*
（基本価格の80% Off！）

77,000 円
（税10%込）

*情報処理学会研究会主催、共催を含む

サイズ：A4 変形判または A4 判二つ折り（その他についてはご相談ください）
用紙：色上質厚口（四六判 80kg）またはコート紙（四六判 90kg）相当

☎ 問合せ先

〔広告代理店〕 アドコム・メディア（株） E-mail: sales@adcom-media.co.jp
〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27
Tel.(03)3367-0571 Fax.(03)3368-1519

一般社団法人情報処理学会 会誌編集部 E-mail: editj@ipsj.or.jp
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F
Tel.(03)3518-8371 Fax.(03)3518-8375

CONTENTS

Preface

- 282 Computers Make Humans Free
Ken MOGI (Sony Computer Science Labs.)

Special Features

Digital Architecture Design

- 284 Foreword - Cheer Up All the People Struggling for Society 5.0 -
Akitoshi OKUMURA (IPA Information-technology Promotion Agency, Japan)
- 285 Outline

"Peta-gogy" for Future

- 293 The "Information" in Education and It's Future
Rieko INABA (Tsuda Univ.)

- 294 Facilitation Used for Information Curriculum :
Three Traps to Fall into When Introducing Active Learning Lessons
Mami MITACHI (Seisa Univ.)

- 288 Biblio Talk
290 Skimming a Famous Paper in Five Minutes
299 Questions for Experts
300 Conference Report
302 Hot Times
303 Hot Times
304 Hot Times
305 Hot Times

Online Only

Special Features

Digital Architecture Design

- e1 Architecture Design to Realize Society 5.0
Yutaka SAITO and Takashi KONO (IPA Information-technology Promotion Agency, Japan)
- e7 Digital Architecture Design : Social / Industrial Architecture Design
Seiko SHIRASAKA (Keio Univ.)
- e13 Architecture of Data Trading System
Hiroshi MANO (EverySense, Inc.)
- e20 Smart City Reference Architecture - Development and Deployment of Architecture Compliant to Society 5.0 -
Norihiro FUJITA (NEC Corp.)
- e27 Natural Language Processing Technologies for Solving Social Issues - What is Needed for Assisting People with AI? -
Kentaro TORISAWA (National Institute of Information and Communications Technology (NICT))

- e34 AI Governance in Digital Society - Ethics and Legal System
Hiroshi NAKAGAWA (RIKEN AIP)
- e40 Research Groundwork for Digital Architecture Design - Key Research Activities at AIST
Hiro KISHIMOTO and Satoshi SEKIGUCHI (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST))

Let's Share Working Styles! <by Info-WorkPlace Committee>

- e47 CASE 2 : Four Birds with One Stone !? How to Enjoy the Online Conference
Chiemi WATANABE (Tsukuba Univ. of Technology)

読後のご意見をお送りください

本誌では、現在約 200 名の方々に毎号のモニタをお願いしておりますが、より多くの読者の皆さんからのご意見、ご提案をおうかがいし、誌面の充実に役立てていきたいと考えておりますので、以下 Web ページから奮って事務局までお寄せください。

「情報処理」アンケートページ <https://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>

一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門 E-mail: editj@ipsj.or.jp

アンケートページ

QR コード



デジタルアーキテクチャに関する特集を考えたのは昨年度末である。そのころすでに、デジタルとコロナという言葉を目にしない日はないご時世であった。この2単語を見ると、なぜか子供のころ見た『宇宙戦艦ヤマト』というアニメを思い出す。宇宙戦艦ヤマトは、苦難を乗り越え遙か彼方の星にたどり着き、そこで新技術を獲得して放射能による人類滅亡の危機を救う物語である。データ分析を得意とするアナライザーというロボットが登場し、新技術の象徴である波動エネルギーを使って行く手を阻むコロナ（ウイルスではなく恒星から放出される高温ガス）を吹き飛ばす話があったからかもしれない。また、現在人類は気候変動やパンデミックといった地球規模の危機を乗り越えるためさまざまな技術開発に取り組んでいて、一刻も早く夢を実現してくれるヤマトのような存在を期待しているからだろう。そんなこんなで本特集著者らと原稿内容について議論していると、著者がヤマトに登場する乗組員のよう思えてき

た。ヤマトには、主人公以外にも、百戦錬磨の艦長、沈着冷静な技師長、大酒飲みのドクター、頑固なベテラン機関士など魅力的なキャラクターが登場する。本特集の著者も負けず劣らず個性的である。皆、バックグラウンドもアプローチも異なるが、日本産業の屋台骨を築いて、地球規模で人類に貢献するブレークスルーを生み出すという使命感に燃えている。デジタルアーキテクチャという新造艦の設計者であり乗組員である。どの著者がヤマトのどのキャラクターか原稿と写真を見て想像するのも本特集の楽しみ方の1つであろう。熱い思いのある著者ゆえ、原稿の閲読と修正は簡単ではなく、発刊が危ぶまれることもあった。発刊が……何かも皆懐かしい、という気分である。本特集がきっかけとなり、ヤマトのように人類に夢と希望を与えるデジタルアーキテクチャがデザインされることを祈念してやまない。著者ならびに関係者の皆様に心よりお礼申し上げる。

（奥村明俊／本特集ゲストエディタ）

次号（7月号）予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

※はオンライン版のみの掲載となります

巻頭言：会長就任にあたって

特別解説：ドコモ口座はなぜ攻撃されたか？～本人確認義務と運用の複合的盲点を生まないために～ …………… 板倉陽一郎

解説：オンラインのデモ発表って、なんだ？※ …………… 越後宏紀

「小特集」触覚と情報処理※

ウェルビーイングにおける触覚の役割—心の豊かさの多様性をつなぐテクノロジー—触覚の情報化が拓く新しいコミュニケーション—身体拡張と身体融合の可能性—触覚を通して身体感覚で行う共生社会へ向けた発見的方法論—「感じるスポーツラボ」の実践—ゲーム体験における触覚のかかわり／行動経済学と触覚

教育コーナー：ぺた語義

連載：5分で分かる!? 有名論文ナメ読み／<Info-WorkPlace 委員会企画> 働き方を共有しよう！※／情報の授業をしよう／先生、質問です！／ビブリオ・トーク

コラム：巻頭コラム

会議レポート：AHs2021 会議報告／「深層学習がもたらす情報処理の可能性について」視聴報告※

複写される方へ

一般社団法人情報処理学会では複写複製および転載複製に係る著作権を学術著作権協会に委託しています。当該利用をご希望の方は、学術著作権協会（<https://www.jaacc.org/>）が提供している複製利用許諾システムもしくは転載許諾システムを通じて申請ください。

尚、本会会員（賛助会員含む）および著者が転載利用の申請をされる場合には、学術目的利用に限り、無償で転載利用いただくことが可能です。ただし、利用の際には予め申請いただくようお願い致します。

権利委託先：一般社団法人学術著作権協会
〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル
E-mail: info@jaacc.jp Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619

また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡してください。
Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

Notice for Photocopying

Information Processing Society of Japan authorized Japan Academic Association For Copyright Clearance (JACC) to license our reproduction rights and reuse rights of copyrighted works. If you wish to obtain permissions of these rights in the countries or regions outside Japan, please refer to the homepage of JACC (<http://www.jaacc.org/en/>) and confirm appropriate organizations.

You may reuse a content for non-commercial use for free, however please contact us directly to obtain the permission for the reuse content in advance.

<All users except those in USA>

Japan Academic Association for Copyright Clearance, Inc. (JAACC)
6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan
E-mail: info@jaacc.jp
Phone: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

<Users in USA>

Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA
Phone: 1-978-750-8400 Fax: 1-978-646-8600

広告のお申込み

■広告料金表（価格は税 10%込）

掲載場所	4 色	1 色
表 2	363,000 円	—
表 3	302,500 円	—
表 4	423,500 円	—
表 2 対向	330,000 円	—
表 3 対向	291,500 円	170,500 円
前付 1 頁	275,000 円	148,500 円
前付 1/2 頁	—	88,000 円
前付最終	—	162,800 円
目次前	—	162,800 円
差込 (A4 変形判 70.5kg 未満 1 枚)	302,500 円	
差込 (A4 変形判 70.5kg ～ 86.5kg 1 枚)	385,000 円	
同封 (A4 変形判 1 枚)	385,000 円	

■「情報処理」

発 行 一般社団法人 情報処理学会
 発行部数 20,000 部
 体 裁 A4 変形判
 発 行 日 毎当月 15 日
 申込締切 前月 10 日
 原稿締切 前月 20 日
 広告原稿 完全版下データ
 原稿寸法 1 頁 天地 250mm × 左右 180mm
 1/2 頁 天地 120mm × 左右 180mm
 雑誌寸法 天地 280mm × 左右 210mm

■問合せ・お申込み先

〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-21-27
 アドコム・メディア（株）（Tel/Fax/E-mail は下に記載）

* 原稿制作が必要な場合には別途実費申し受けます。
 * 同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック ☐ を入れ、送付希望先をご記入の上、Fax にて（または E-mail にて必要事項を記入の上）アドコム・メディア（株）宛にご請求ください。

■「情報処理」 62 巻 6 号 掲載広告（五十音順）

☐ とめ研究所…………… 表 2 対向上

■資料送付先

フリガナ お 名 前			
勤 務 先	所属部署		
所 在 地	(〒 -)		
TEL ()	-	FAX ()	-
ご専門の分野			



お問合せ・お申込み・資料請求は

広告総代理店 **アドコム・メディア（株）**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp

賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。
Web サイト (<https://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/sanjo.html>) 「賛助会員一覧」のページからも
各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: mem@ipsj.or.jp Tel.(03)3518-8370

●●● 賛助会員 (20 ~ 50口)

HITACHI
Inspire the Next

(株) 日立製作所



三菱電機 (株)

FUJITSU

富士通 (株)



(株) サイバーエージェント

Orchestrating a brighter world

NEC

日本電気 (株)



日本アイ・ビー・エム (株)

●●● 賛助会員 (10 ~ 19口)



(株) リクルート



グーグル合同会社



(株) NTT ドコモ



(株) 東芝



日本電信電話 (株)



日本マイクロソフト (株)



(株) フォーラムエイト

●●● 賛助会員 (3 ~ 9口)



(一社) 情報通信技術委員会



(株) NTT データ



グリー (株)



(一財) インターネット協会



(一社) 情報サービス産業協会



トレンドマイクロ (株)



NTT コムウェア (株)



NTT テクノクロス (株)



(株) うえじま企画



エッジテクノロジー (株)



沖電気工業 (株)



コアマイクロシステムズ (株)



三美印刷 (株)



ソニー (株)



(株) テクノプロ
テクノプロ・デザイン社

MIZUHO みずほ情報総研

みずほ情報総研 (株)